

イラク問題について

三三三二五字

おはようございます。民主党の桑原です。

質問に入る前に、我が党の石井紘基議員が右翼の暴漢に襲われて亡くなりました。本当に言論の府にある者として許しがたい出来事だというふうに思いますし、深い悲しみと憤りを禁じ得ないというふうに思います。

この委員会の前田委員も、数日前に演説中に襲われた。幸いにして大事には至りませんでしたけれども、こういった風潮があるということを本当に残念に思うわけでございまして、石井議員に対しては哀悼の意を表するとともに、私たちは、やはりしっかりと民主主義を守り、そして言論の自由というものを大切にしていこう、そういうことで前進をしていかなければならない、そういうふうに思うところでございます。

さて、きょうは、北朝鮮問題は後日集中審議ということでございますので、私は、アフガンの情勢並びにイラク問題について質問をさせていただきますと思います。

昨年の九月十一日のテロ以降さまざまなことが行われてまいりましたけれども、その中でも最大の活動というのは、やはり米軍を中心にしたアフガンに対するテロ掃討作戦だというふうに思います。後から申し上げるイラク問題もこれと関連づけている議論をされておりますので、まず、アフガンでの作戦、これに対する現状の

評価というものをお聞きしたいと思います。

アメリカは大変いろいろな困難な条件、例えばアフガンの部族間の、あるいは部族の内部でのさまざまな主導権争い、あるいは掃討作戦そのものが山岳地帯の非常に厳しい条件のもとでの作戦である、地元の人たちとテログループとの見分けがつかないとか、いろいろな要素が重なって非常に手をやいているというのが現状だろうというふうに思います。むしろ、掃討が進むというよりも、ある意味では治安の維持に全力を傾注しなければならないというふうにも伝えられておるわけでございまして、私は、この作戦の効果に甚だ問題、疑問を感じるわけでございまして、私は、この点についてのどのような現状の評価を持っておられるのか、まずそれをお伺いしたいと思います。

川口国務大臣 お答えを申し上げます前に、私からも、石井議員が亡くなられたことに対して深い哀悼の意を表させていただきますと思います。

御質問の、アフガニスタンにおけるテロの撲滅作戦の効果、評価は何かということですが、アフガニスタンでは、アメリカ軍を中心として引き続きテロとの闘いが続いているわけですが、オサマ・ビンラーディンはまだ捕まっていない、オマル師もまだ行方不明のままであるということでございます。そして、テロとの闘いは世界各地で引き続き続いているという状況でございます。また、おっしゃったように、アフガニスタンでは、治安の問題も引き続き大きな問題としてあるということが現状です。このアフガニスタン

におけるテロとの闘いというのは、そういう意味で引き続きまだ続いているし、米軍の投入の数等を見ても、むしろ闘いはますます大きくなってきているということだと思えます。

この効果を何ではかるかというのは非常に難しいことだと思いますけれども、そういった努力を引き続き続けるということが大事であると私は考えております。テロとの闘いというのはそう簡単なことではなくて、粘り強く闘い続けるということが必要ですし、そういう期間でこれが終結をするということではないと思いますが、これは我が国も当然含むわけですが、テロは国際社会全体に対する脅威であるということは変わらない、この闘いをやめてはいけないと私は考えております。

桑原委員 大変困難な状況の中で、ますますテロとの闘いが激しさを増し、そして拡大をしていく、こういうふうな御認識だということに思いますが、私は最近特に感じるのは、イエメン沖でのフランスのタンカーの爆破テロ、あるいはフィリピン、そして最近ではバリ島のあいう大がかりなテロ、そしてモスクワの劇場におけるチエチエンの武装勢力のテロ、本当に今あちこちで頻発しておりますし、また、計画段階でいろいろうわさされているものもたくさんある。こういうことで、だんだんだんだん、日本の遠くの話ではなしに、アジアも含めた広域にわたってこういう状態が出てきている。これは、アルカイダがある意味では拡散をして、そしてさまざまなテロ組織が連鎖的に連携をしながらといましようか、そういう形であちこちで行動を起こす、こういうことになっているのでは

ないかというふうに思っています。

そうすると、アメリカのそういう作戦そのものがそうしたものを触発しているのではないか。ある意味では、今までアルカイダと直接関係なくても、そういういろいろな展開の中でアルカイダとの接触を図ったりして、九・一一のテロを撲滅する、そういうことの行動の中からだんだんだんそういう連鎖反応が出てくる状況になりはしないかと大変恐れるわけですけれども、その点について、戦線が拡大するのはやむを得ないというふうに見るのか、やはり問題があるというふうにとらえていくのか、そこら辺の認識をお聞きしたいと思います。

茂木副大臣 桑原委員のほうから、テロの最近の国際的な頻発、そしてまた連鎖という大変重要な問題につきまして御指摘をいただきました。まして、先ほど池田新委員長のごあいさつの中でも、このテロの問題、そしてその対策の課題を冒頭で取り上げていました。まさに今委員御指摘のとおり、このテロの国際的な撲滅の問題、これは国際社会の最優先課題である、こういうふうにご考えているわけであり

ます。まず、その中で、国際社会そしてアメリカのテロ撲滅についてであります。昨年の九月十一日の米国の同時多発テロの発生以降、テロリストに安住の地を与えないために、国際的な法的枠組みの強化及び捜査、情報面での協力、強化等、テロの防止と根絶に向けた米国を初めとする国際社会の取り組みが強化をされております。米国によりますと、これまでにアルカイダの構成員二千四百名の拘

束など、多くのアルカイダ構成員の拘束等の成果が上がっている、このように承知をいたしております。

その一方で、委員御指摘のとおり、最近、バリ島での爆破テロの事件等に見られるとおり、国際社会に対するテロの脅威は依然として除去されていない、そのように今認識をいたしております。そういった中で、我が国としても、このテロに対して、どういう因果関係があるのか、さらにどういう連関があるのか、今後とも引き続き注意深く調査をし、対応していきたい、このように考えております。

桑原委員 果てしなく広がって、收拾がつかないことになって、世界じゅうに戦線が拡大する、そういうことだけはやってはいかんことでありまして、やはりきちっとした目的の特定といましようか、そういうものに基づくやり方というものをきちっとしていかないと、本当にあらゆるものがテロと関係してくるというような話になりかねませんので、そこは、テロ特措法のときにもそういう議論は相応やりましたけれども、やはりきちっとやっていく必要があるだろうというふうに私は思います。

さて、アメリカがアフガンの問題と深く関連づけて考えているわけですが、イラクの問題、特にフセイン政権の問題、これをどういうふうに見ていくのかということについてお尋ねをしたいと思いません。

ブッシュ大統領は、イラクは悪の枢軸といつづつに名指しをして、イラクに対して相当厳しい対応をやるうといたしておるわけであり、既に、着々とイラク攻撃ができる準備を整えている、包囲網

をしきつつある。兵力の配置もしかりでございますし、先制攻撃も含めた武力行使容認の国内での決議も、既にアメリカの上院、下院を通じて大統領も署名をした、こういうことでございますし、新聞などで伝えられるところによれば、いわゆる日本のGHQの占領政策、そういうものを参考に、イラクの戦後の再編というふうなものまでいろいろ検討しているというふうなことまで伝えられておるわけでございまして、相当な準備を進めているわけでございます。

このアメリカの、悪の枢軸、こういう見方、これに対する我が国の評価と申しましようか、我が国はどうそれを考えているのかということをお聞きしたいと思います。

川口国務大臣 悪の枢軸というのは、ことしの一月にブッシュ大統領が使った言葉ですけども、この発言というのは、まさに委員が御指摘になつていらつしやるようなテロの脅威、そして大量破壊兵器の脅威、こうしたことが問題である、これに対する闘いをしなければいけないという強いブッシュ大統領の決意を